

授業参観アンケート回答結果について

平成28年10月17日(月)から10月28日(金)の期間に実施された授業公開に対するアンケート調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。お蔭様で多数の回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

【質問1 に対する全回答】

《機械工学科》

- ・板書の字を、より大きく、線もより太く、見やすく書く。
- ・100人規模の大教室での授業であっても、学生が主体的かつ積極的に授業を受けるためには、簡単な例題を示し、それを学生に解かせ、学生に答えを問いかけることが重要であると感じた。

《電気電子システム工学科》

- ・自分の場合、講義中、学生の方を見ずに下を向いてしまう癖があるので、ちゃんと学生の方を見て臨機応変に対応しようと思った。
 - ・基礎的な内容や計算問題を解説する講義では、ついつい問題を解くことに注視してしまいがちだが、どうにか応用例についても言及しようと思う。
 - ・講義の前半部分における前回講義のおさらいと、講義の後半部分における次回講義の導入は必須だと思う。
 - ・PowerPoint で作ったスライドを印刷したものを配布し、そこに書き込む形式を取っているが、ノートを学生にしっかり取らせることも重要であると感じた。
- また、学生がノートを取る時間と教員が説明する時間をきっちり分けることで、学生がノートを取ることに集中して、スライドに書いてあること以上に重要なことを聞き漏らすということを避けられるので、自分の授業でも是非取り入れたいと感じた。
- ・人数の多い授業でも一人ずつ当てて問題を解かせることができるとわかったので、取り入れてみたいと思います。
 - ・ゆっくりと説明することを心がけようと思う。
- ・板書とパワーポイントを併用されている講義を参観したが、黒板灯がスクリーンの手前にあってパワーポイントが見えにくいという、講義室の設計として残念な状況であった。自身の授業で改善するとすれば、講義室を変更するか授業スタイルを変更するかになるが、可能であれば講義室の設計面において改善されることを期待したい。
 - ・自分はパワーポイントの中にスタイラスペンで書き込むスタイルをとっていますが、急がずに文字をもう少し丁寧に書く必要があると思いました。
 - ・説明が早口になりがちなので、学生がついていけるようにゆっくりと説明するように心がけたい。
 - ・エ-55 番教室の最後尾からプロジェクタ画面を見て、自分の講義では文字が十分大きいのか、受講生が読みやすいか、改めて注意すべきだと思いました。
- また、学生が黒板等をノートに写す時間を十分長く取るように努めて意識すべきと思いました。

《情報システム工学科》

- ・わかりやすいたとえや身振り手振りで学生の興味を引くというのは、自分も心がけているつもりではあるが、より効果的に行えるようにし

たい。

・小テストの導入は検討してもよいかもしれない。

・先生が講義を楽しむことが重要だと思いました。先生が楽しみながら熱意を持って学生に話しかけることで、学生も講義に積極的に参加するようになって感じました。

《応用化学科》

・宿題や小テストを高頻度で学生に課して学習を促す効果はやはり高いと思われる。不正行為等が連続して起こったため数年ほど前に取りやめた宿題や小テストを、また来年度から行うことを考えたい。

・板書しながらではなく、なるべく学生の方を向いて話をするようにすべきと思いました。

・内容が精査されていて、時間内に教えることを盛り込みすぎていることが印象的でした。自身の講義内容を振り返って見た時に、もう少し整理できる部分があるのではないかと思います。

板書の文字が小さくなりがちなので、改めて丁寧に大きく書くことを心掛けたいと思いました。

・今回見せていただいた先生は、授業スピードがよく、説明と板書をさせる間隔が程良かった。間の取り方は改善させていただきます。

・教室の後ろ半分の学生の受講態度が良くないが、大勢が受講する講義では実際に教員からは見えないので、どのようにして講義を管理していくかを今後考える必要がある。

・学生に語りかけるような話し方は必要だと思った。教科書に沿った講義は分かりやすいが、それだけだと飽きられやすく、良い意味での緊張感もなくなってくるように思う。教科書の内容をうまく伝えられるような独自の例題を用意して、授業を進めて行きたい。

《機能材料工学科》

・講義内容の整理と授業の進行速度は重要と感じました。

あまり内容を詰め込みすぎないよう、工夫したいと思います。

・受講者が「見られている」という感覚を持つようにするのが大事ではないかと思いました。講義で話す内容に集中しすぎると、受講者に注意が向かなくなる傾向はありますので、自分も気をつけなければいけないと思いました。

・スライド使用の際、1枚当たりの表示を適切な量にすることをこころがける。

・パワーポイントによる授業、プリント配布、など自分でも実行している形態であっても工夫があると双方向な効果的な授業になると大いに参考になった。

・板書とスライドの有効な併用は難しいと思っていたのですが、上手にこなしておられる例を見ることが出来、参考にしようと思いました。

・素晴らしい講義をさせていただきに、よく聞いて欲しいと感じました。定期的な巡視や、座る席をある程度規定するなどしないと、特に受講者数と教室サイズが釣り合いになってしまった場合に、受講態度の乱れに繋がるのかも知れない…、という懸念を持ちました。

・現在、自分は殆ど板書で授業を進めているが、板書と同時にプロジェクタを同時併用することを検討・試行したい。

・1年生向けの講義を観覧したが、とてもうるさい教室だった。何故こんなに受講生が集中していないのだろうと、考えるきっかけになった。今回に関しては、

① 教員が積極的に私語を注意していない。

② スライドを映す講義のため、教室半分の電灯を落としているが、教科書も指定していて、前に居ると教科書が見えない。また黒板に書くが、暗くて後ろから見えない。かつスライド内の文字も小さくて見えない。

恐らくこれらのことが、受講生の集中力を削ぐ結果となり、後方の席では、内職(他の科目の教科書を出し、宿題らしき課題に取り組んでいる)に走ったり、スマートフォンいじりが止まらなかったり、していると分析出来た。

教員側が話しやすい環境や資料作りよりも、受講生側に配慮した姿勢を見せなければ、学生の注意力は発散するだろう。

- ・学生に自ら思考させるための学習方法や時間配分を考えながら、バランスのよい授業を心がけたいと思います。
- ・工夫を凝らした分子模型を作成し、学生の興味を引いていたので、学生が興味を示すようなスライド資料および提示資料を作成したいと思う。

《建設工学科》

自分も建設工学実験を担当していることから、実験で得られる経験という観点から、次年度の実験講義内容を検討することを考えている。

《環境共生学科》

- ・対話形式で講義をされている科目を見学させていただきました。
- ・少人数でないと実践は難しいと思いますが、自分の講義の中でも取り入れられないか考えてみたいと思いました。
- ・授業の内容だけでは、フォローできない学生のためにも、復習のしやすさを意識してもいいかなと感じました。

【質問2 に対する全回答】

《機械工学科》

- ・実施する意味はあると思う。
- ・ベストレクチャー賞だけでは数が少なく予定が合わないことが多いので、ベストレクチャー賞以外にも授業アンケート評価の高い授業が時間割に明記されていると授業参観の際に参考になるかと思います。

《電気電子システム工学科》

- ・今後も続けてほしい企画です。
- ・他の先生方が担当されている授業を堂々と聴講できる良い機会なので、今後も続けて欲しいです。
- ・年に1, 2回ということであればよいきっかけと思います。
- ・特にありません。
- ・昨年度の授業参観は後期でした。今年度は前期の順番のはずですが、2年連続で後期に授業参観が実施されたのは何故でしょうか？
- ・年二回ぐらいは、他の教員の参観も必要であると感じています。
- ・特にありません。

《情報システム工学科》

- ・実施期間が短い。せめて一か月はないと、予定を調整できない。
- ・科研費の締切と期間をかぶらせるのはやめてほしい。
- ・毎年参観しておりますが、その都度新たな発見がありますので、今後も引き続き継続していくことを期待します。

《応用化学科》

- ・特になし。
 - ・他の先生方の講義を参観することは勉強になることが多いので、今後も継続して行って欲しい。自分の授業について見直すよいきっかけになる。
- 同じ学科の先生の講義はほとんど参観したので、今後は他学科の先生の講義も参観したいと思う。
- ・特に無し。継続して良いと考える。
 - ・このような機会があることは良いと思う。他の教員の良いところを取り入れるのはよいが、教員や授業が画一的になるのは避けた方がよい。教員や授業の個性が学生の個性を伸ばしたり、別の意味での勉強(社会勉強)になったりするので、教員はそのような個性を

参考にしながら、規範から逸脱しない程度に自分の個性を磨いて行けばよいと思う。

《機能材料工学科》

- ・毎年、参観させて頂いていますが、それぞれの講義で工夫がなされており、参考になることが多くあり、有意義と思います。また、共通の問題点（授業中のスマホいじりなど）もあると感じますので、FD シンポジウムなどの場で対応を議論しても良いのかなと感じました。
- ・ほぼ全教員の FD 活動への参加が必須となる中で、手軽に参加できる良い方法だと思います。後ろにいと、また、違った目で授業を眺めることができますので、講義をされる先生の「もう一つの目」として、働くことが出来るのではないかと思います。
- ・ベストレクチャー賞を受賞している演習を聴講しようとしたが、講義室の表示が不明瞭（分散している？）で参観することが出来なかった。
- ・今回、一番のメリットと感じたことは、大教室での講義の際、一番後ろから見ると、受講態度の悪い学生がはっきり分かるということでした。学生の指導に関し、思わぬ課題が見つかったことは非常に大きな収穫だったと思います。
- ・参観期間を現在の倍程度にしていきたい。
- ・後方の席に座っている受講生の態度がとにかく良くなかった。すぐ後ろに観覧の他教員がいるにもかかわらず、姿勢を改めないのは、真面目さだけでなく、注意力や想像力にも問題を感じた。こうした「学生の変化」(昔の学生は、少なくともこういう時、その場を取り繕うくらいはしたように思う)を感じれるという意味で、有効だったと思う。
- ・教育の質の向上に役立つ良い機会だと思いました。
- ・相互の参観を長いこと実施しているので、隔年の実施形態でも良いかもしれません。

《建設工学科》

自身の授業のレベルアップとともに、学部全体での教育効果の向上に役立つと思います。

《環境共生学科》

- ・基礎教育科目の設置により、工学部の学生が履修しているが、理学部の先生が担当している科目があります。理学部の先生方には今回の授業参観のお知らせは行っているのでしょうか？それとも、工学部の FD なので対象外なのでしょうか？
- 一応、担当の先生に見学希望の旨をお伝えしてから見学にいきましたが、気になりました。（見学はさせていただきましたが、感想は書いていません）
- ・授業参観を継続して行っているため、新たに気づく点も少なくなってきたのは事実ですが、他の教員の授業を参観できるチャンスがあることそのものに意義があるように感じます。